

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地	浜松市西区雄踏町山崎2829番地		
自己評価作成日	平成27年8月25日	評価結果市町村受理日	平成27年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2278200106-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に基づき、家庭的な雰囲気ですっきりと楽しく自由でありのままに、その人らしい生活が出来る様日々支援に努めています。自然に囲まれた環境の下、季節により園外に散歩に出かけ咲く花々に心を和ませています。月1回のお楽しみ外出では、季節を感じられる計画を立て利用者様の希望を取り入れて、外食や地域のイベントに参加しています。また、施設の畑で収穫した野菜や果物を使っておやつ作りも利用者様に好評を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

畑に囲まれた約1万6千平米の敷地を擁して6つのサービス種別とともに事業所はあります。広い敷地内での散歩は「思い立ったら」で実現でき、また併設デイサービスで毎月開催の「喫茶店なごみ、では好みのケーキと飲み物を注文することが愉しみとなり、月1回の外出企画では外食を堪能しています。意識に上下がなくフラットな関係が働きやすいのか離職も少なく、清廉で穏やかな表情の利用者とそれに呼応して同調している職員の姿がありました。日に上限3名の通いの利用者を受入れることで職員が「レクリエーションを活発に」と思うようになり、活動が増えたとの例からは、「自ら考える、力が育っていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室内に運営理念を掲示して、全ての職員が共有して実践につなげています。	開設以来何度か見直した理念はここ数年は定着しています。リーダーが常々「利用者を中心に(本位に)」と伝えているためか、清廉で穏やかな表情の利用者とそれに呼応して同調している職員を視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の参加、山崎地区自治会開催の集いへの参加、買い物や食事は地元のお店を利用しています。	近隣から運営推進会議に参加の人が耕運機持ち込みで畑を手伝ってくださったり、草取りに訪れる人もいます。先月の山崎祭りでは華やかな山車と勢いあるラッパ隊が立ち寄り、非日常を愉しむことができました。	周辺に居住の職員が多いとのことで情報が入りやすいため今後は側溝清掃などにも加わりたい考えをお持ちですので、ぜひ実現を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地元民生委員や地域の代表者と意見交換し地域の人々の意見を聞いたり認知症の人の理解を伝えたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告や行事報告は毎回行っています。山崎自治会長の参加により地区行事の情報を得て、地域の方々との交流に努めています。	行政や地域からの出席も得られ、利用者や職員も加わり20名近くの集まりへと発展しています。家族が得意なマジックを披露したり、職員が庭の梅や畑で採れたシソでジュースを振舞っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には区役所職員が毎回参加しています。会議後は、会議録を作成し提出しています。	運営推進会議では認知症の基礎知識の学習に取組んだり、法改正の話をだすことで行政と地域(利用者、家族を含む)との結び役を担っています。介護相談員の訪問も月に2回あります。	リーダーがキャラバンメイトを修了しているとのことですので、地域包括支援センターや民生委員の協力を得て、区内で開催できることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを常に全職員が意識を持って日々実践しています。	至るところに出入り口があり居室も掃出しの大きな窓ですが、敷地内は囲いもあり、また職員も目配りをおこなっているため、抑制や制止はありません。「足元は少し大変そう…」と映る人でも意気揚々と散歩に出かける様子を確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のグループホーム会議に於いて、虐待になっていないかケース検討を行って全職員で学ぶ機会をつくっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の利用者がこの制度を利用していますので、この制度を必要とされる方には活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にグループホーム内の施設見学をしていただいています。日常の様子等を伝え、契約に至るまで十分な説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、個々の意見や要望を伺う機会を設けています。面会時にも交流を図りながら意見等を伺っています。玄関には意見箱を設置し、幅広いご意見を収集しています。	面会ではお茶を提供する折「何かあれば声をかけてくださいね」と告げることで言いやすい雰囲気をつくっています。請求書と同封の小遣い残高帳の空欄へコメントを入れ、毎日の生活がわかるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員会議を行い個々の意見を聞き、話し合いを行っています。また、個別に意見等があればその都度意見や提案を聞く機会をつくっています。	職員会議では、全ての職員が活発に意見を出し合っています。会議に諮らずに決定があると「自分たちのことは、自分たちで決めたい」と声が挙がり、自らの責任をはっきりさせたうえで改善提言が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準・労働時間・やりがいなど、必要な条件整備のため法人理事会に提案して職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、施設内勉強会を開催し職員のスキルアップを図っています。また、外部研修会も出来る限り全職員が参加できますよう配慮しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県認知症高齢者グループホーム連絡協議会等に加入し、研修会等を通して交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の要望を聞き、生活パターンを取り入れた支援をして信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の要望を聞き、その要望に耳を傾けながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の意向を十分に理解して支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき職員は利用者と共に生活し、支え合い寄り添って日々の暮らしに絆を深め良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて近況を報告、情報を共有して支援しています。受診時は家族に付き添いをお願いして本人との交流を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問を通して馴染みの人との交流を大切にしています。入居前の係りつけ医院もできるだけ通院して利用しています。	併設デイサービスで毎月開催の喫茶店では注文を選ぶ悦しみが、またカラオケ喫茶にも繰り返しかけています。面会の家族が見えなくなるまで見送る本人に寄り添い、待つ職員の姿もありました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事をみんなで、助け合って仲良く生活できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから特養に移った方の所に面会に行ったり、その逆の形もありで相互に関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、ちょっとした会話に思いや暮らし方の希望、意向が隠れているので、それらの把握に努めています。	全ての職員が一人ひとりの利用者の意向を掴むことができるように、チャンスを窺うことが身についています。例えば外出では時と場所により新しい意向が表出されることもあり、職員会議で報告されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活歴とさまざまな情報を重視し、本人の生活リズムに合わせて支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌にひとり一人の事柄を記録し、職員の連絡ノートで情報を全員が共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回職員会議を行い、その中でケース検討や担当者会議を行い、介護計画の資料作りの話し合いを行っています。	能力に応じた自立を目指すプランづくりを旨としています。原案は面談にて説明をおこない、家族とともに本人も同席してサインをおこなうこともあります。書面はカラー印刷されていて、大変見やすくなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して特養の相談員や機能訓練指導員に相談・協力を得てサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームやまぎきで、共用型認知症対応型通所介護事業を行い、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら納得いく医療が受けられるよう支援しています。	協力医は月2回往診に訪れるほか、24時間オンコールで、必要に応じてすぐに駆けつけてくれる関係ができています。専門科目への受診は家族にお願いすることになっていますが、難しいときは職員が代行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師と相談し、且つ必要があればかかりつけ医に連絡をとって指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き状態の把握に努め、入退院時には家族のサポートに努めながら情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族にその時点での考えを伺っています。その考えを持って全職員が支援にあたっています。	看取りはおこなわない考えで運営しており、契約時には家族と合意形成できていますが書面は交わしていません。重度化した場合は法人内施設をはじめ他所を紹介する支援もおこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議や勉強会等で初期対応の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回は避難訓練等の災害対策を実施しています。また、地域で行われる防災訓練にも参加し地域との協力体制を築いています。	多様なサービス種別のなかで相互援助の体制があり、またIHのため火災が起きる可能性も低い環境にあります。グループホーム建物裏手には有事の際活躍する自家発電所もありました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の尊厳を大切に、接遇マナー向上プロジェクトメンバーより言葉使いについての指導を受けています。	外部の接遇研修にも出向き修練を積み、内容は会議を通じて落とし込んでいます。また法人内に「接遇マナー向上プロジェクト」のチームが設置されていて、事業所からも1名の職員がメンバーとして参画しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースに応じた無理のない支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪は特養にきている訪問理髪を利用しています。洋服等の買物は、希望があればいっしょに買い物に出かけおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の状態に合わせて役割分担してもらい、楽しく食事づくりや片付けに参加してもらっています。	利用者にも手伝ってもらい、紅あずまを芋ご飯にしたり、魚の味付けにシソを使用したりと畑の収穫物を活かして調理されています。オープンキッチンの台が低くモノが置きやすいことが特長的でした。	テーブルを囲むなら職員も同じメニューで、また異なる食事なら別室が良いのではないかと感じました。またテレビの音もこのままでよいか、2点職員間で改めて協議ください。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を管理栄養士が作成し、介護職員が食事摂取量や水分量を記録してひとり一人の健康管理をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをして口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録してひとり一人の排泄パターンを把握、トイレ誘導が必要な方にはトイレでの排泄を行っています。	トイレにはパッドなど置かず、臭いもなく清潔です。感染症に配慮して手拭きはペーパータオルでした。居室にもトイレが配され、介護度1.3ということも相まってそれぞれのリズムでおこなえています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や散歩等の運動をして便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は1日おきに入浴をして清潔保持に努めていただいています。また、入浴日以外でも希望があれば、希望にそって入浴が楽しめるよう工夫しています。	3面から入ることができる浴槽の周囲には十分なスペースがあり、ゆったりと広い浴室です。1日おきと予め決まっていますが毎日入浴する人もいて、自由です。シャンプー等の消耗品は一人ひとり用意されていました。	脱衣のための棚がないため、使いにくいのではないのでしょうか。また物干し器具の置き場も決まっていることが望ましいように感じました。改めて検討を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人のペースに応じて、安心して休息したり良眠できるよう対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の内容をしっかりと把握し、体調の変化が見られたときは速やかに主治医に連絡し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人に合った役割を分担してお願いしています。生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて職員と共に買物に出かけています。	約1万6千平米の敷地には木陰もあり夏でも苦にならず、散歩とシルバー体操は日課となっています。食事中「今月はいつ行くだあ～」と職員に問う人もいて、月1回の外出企画が待たれていることが覗えます。今月はガーデンパークと食事が予定されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、現在職員が行っています。今後、自己管理が出来る方がいればお金を所持したり使えるように支援していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙が出せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、誰もが居心地の良い環境づくりに努め、生活感や季節感が感じられる工夫をしています。	大きな窓と天窓から差し込む光が豊かで、木目の腰板が温かみを醸し出しています。昔懐かしい縁台をおもわせる畳敷きの休憩処は洗濯たたみやデイサービス利用者の昼寝に活用され、夜間のモップがけと毎朝利用者もおこなう清掃で埃一つありません。	中庭に鉢植えやプランターの植物が置かれ、なごみの場が増えることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにおいて、ゆったりと過ごすことができるようソファーをおいて大勢の方がくつろげる空間を用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室をできるだけ前に過ごしていた部屋と同じになるよう配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	自分だけのものとして使える洗面台とトイレがあり、好きな歌手や家族の写真、アクティビティ作品が並ぶ居室には、掃出し窓に合わせた3メートルはゆうにあるカーテンのドレープが風に揺れ、印象的でした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれトイレと洗面所が設置されていて個々のプライバシーが守られています。		